

入候處近來世上にて狻に賣買致し質物に入或は買込置候儀も有之由相聞候向後
無滯銀座へ賣渡可申候銀座よりも改申出候様申渡候間隠置追て相知候者急度可
申付候以上

巳八月

文字金銀割合遣當年中を限來午正月より割合遣相止並増歩相減候儀先達て申渡
候處諸事請拂極月晦日を限取引致右請取候古金銀正月より割合遣相止増歩減候
ては難儀致候由江戸京大坂諸問屋とも願候付來午四月迄割合にて可致通用候金
共に來午四月迄引替案内申込候分は四月以後引替金銀相渡候とも只今迄の増
歩相渡五月朔日より以後引替案内申込候分は先達て申達候通増歩可相減候

巳八月

九月十二日ヨリ十三日ニ至ル泰桓公七回忌瑞聖寺ニ於テ法會修セラル銀五十枚米
二十俵納付

十一日ヨリ十三日ニ至ル萩東光寺ニ於テ法會執行セラル高野山墓所へハ萩ヨリ市

川與三ヲ遣シ代拜セシム

廿八日井上七郎兵衛國重九郎兵衛ニ乃美權右衛門替大組頭役ヲ命ス

同日尾州領ニ於テ大寧寺龍峯逮捕十一日晦日萩へ護送セラル相府年表

十月七日大納言殿山王氷川ノ社ニ詣給フコタヒ御宮詣ニヨリ高年ノモノ、白髮ヲ
モトメラレシニ松平伊豆守信視封地山城ノ國戸井原郡小泉村民萬平ナル者今年百
八十四歳妻百八十六歳長男百六十四歳凡兄弟ヨリ玄孫マテ百三十九人ナリトテソ
ノ白髮ヲ奉ル徳川實紀

八日物頭役刺賀佐左衛門家計窮迫ヲ以テ辭職ヲ乞フ春來病ト稱シ屏居家人ヲ放チ
馬ヲモ飼養セス職務ヲ無視シタル行爲ニ因リ蟄居ノ後隱居ヲ命ス

九日近侍井原小四郎數年精勤ニヨリ銀七枚下付

十九日毛利市正亡父外記遺物唐金花瓶ヲ献ス

廿二日京都町人用聞三木權大夫死去嫡子權治相續ス權大夫生前ノ請願ヲ許シ權治
へ合力米三百俵下付セラル

廿六日毎月朔望ノ外二十八日ノ賀儀ハ正、二、四、七、十二月ノミニ限り他ノ月ハ拜賀ニ及ハスト令セラル大目付同狀

十一月廿三日國持大名ノ家老年始又ハ限有ル祝儀ノトキ供從ノ内殿斗目着用ノコト幕府目付ノ質問ナリシニ陪臣ノ家來殿斗目着用禁止ノ報答アリ

晦日長門國見島郡ヘ朝鮮ノ漁船一隻十三人漂着之ヲ幕府ニ報シ長崎ヘ護送如例
閏十一月朔日側儒山縣少助小倉尙齊替明倫館學頭ヲ命ス

四日横山勘兵衛ニ三戸源右衛門替表番頭役ヲ命ス粟屋六左衛門ニ乃美權右衛門替赤間關唐船打方役ヲ命ス

五日茂山ニ表局ヲ命シ五人扶持ヲ恩金二十兩ニ直シ給與ノ命アリ

十二日夏以來虫枯風雨洪水旱損ノ爲メ田島被害高六萬五千石餘檢見高二萬千七百三十一石ヲ三倍ニシテ如上ノ高幕府ヘ報告セラル長府領田島高五千九百五十五石五斗餘徳山領同一萬千四百七十九石餘清未領同千四百一石六斗五升二合損害ノ通報アリ

廿一日及二十三日閣老ソノ他衆賓ヲ招キ饗應アリ世子竹千代君ノ生誕ヲ賀スルナリ

廿二日田安右衛門督一橋刑部卿ニ途中行逢シ者ハ三家ニ同シク拜伏スヘシト令ス
徳川十五代史

十二月五日是日公松平兵部大輔宗規妹勝子ヘ納采セラル贈物大畧左ノ如シ

一小袖三重 一下着三 一下帶二

一雉子一折十二羽 一鯉一折十二條 一鹽鯛一折十二條

一昆布一折十二連 一錫一折十二連 一樽三荷

右夫人勝子君ヘ

一太刀一腰 一馬代金十兩 一襦三種

一樽一荷

右兵部大輔ヘ

一縮緬十卷 一肴二種 一樽一荷

右同夫人へ

一縮緬五卷

一肴二種

一樽代千匹

右智高院夫人へ

長壽院壽公夫人養心院夫人青雲公法林院泰垣公三夫人ヨリモ各贈物アリ是日兵部大輔

一家ヨリ報答贈物アリ之ヲ略ス

九日赤間關出火百五十三戸焼亡

十四日乘輿ノ制發令左ノ如シ大目付同狀

萬石以上嫡子の内月切乗物斷相濟候面々も下馬迄乘輿可有之候下乘迄乘輿之儀
は向後可爲無用候

廿八日長沼勘右衛門澤江村畔頭ヲ殺害シ平素不法ノ行爲アルニ因リ逼塞ヲ命シ家
祿沒收流刑ニ處ス嫡子作平毎月四人扶持宛捨扶持給典

元文三年戊午正月公江戸ニ在リ

十一日勤方藏田安左衛門松平兵部大輔へ新年祝式儉政中太刀小馬代贈答ノ約ナル

ニ太刀金馬代ヲ進セラレタルハ安左衛門調査ノ粗漏ニ依リ逼塞ヲ命ス

十五日大坂銀子方作間七右衛門發狂自殺セリ職務ニ關シ過失ナキモ前例ニ因リ持
掛リ扶持方五人米二石外ニ開作高二十二石ノ内五石四斗減少殘未五人扶持米二石
開作十六石六斗ヲ嫡子九郎右衛門ニ下付跡職ヲ命ス

十八日松平兵部大輔妹勝子君入輿婚姻ノ式アリ

輿受取役毛利宇右衛門具桶受取役内藤與三右衛門刀受取役原權左衛門脇差受取
役福原忠兵衛幕受取役中村丹下弓受取大和嘉七郎紙燭差兩人東條七郎兵衛佐々
木彌六辻堅換抄兒玉市之助粟屋與一右衛門以下畧

同日後房夫人付役員ニ對シ原權左衛門長井久左衛門へ老臣訓令左ノ如シ原權左衛門ハ記録

條々

一御裏付の面々行規作法能諸事御裏年寄請差圖可遂其節候事
一火の元可入念事

一自然急火の節御供の次第別紙書付の通可遂其節候事

一壁書より内へ被差免者之外出入停止の事

一附被差免者の外於于時被召出候者は御裏年寄差圖次第たるへき事

一附幼少たりというとも十一歳以上の男子出入停止の事

一御取次役の儀は御用の節は御茶の間迄可參事

一御膳夫並煮方の者其外御臺所役人は御膳の時はかり御末迄可參事

一暮六時以後女中鎖前の外へ出候儀停止の事

但不叶子細於有之者御裏年寄承届可令吟味事

一夜中鎖の口四時切にしめ可申候爲火用心四時迄二三度宛御取次當番の者夜廻

仕火の元可申付候事

附四時以後女中の夜廻御裏年寄校了を以可差廻事

一御裏へ女客其外いつれの女中たりとも無御用者帶留無用たるへし自然無據子

細於有之は御裏年寄聞届の上滞留可差免事

一女中親族より差越候使書狀等の儀は御取次可令沙汰事

附女中へ他所より見廻の女使等參候節は先聞次候所留置それへ申達し

面々より人差出受引仕奥へ通し申間敷候自然不叶子細於有之は御裏年寄

聞届其断り吟味對屋へもとをし申可候事

一御家來より女使差出候は、先鎖前にて聞届一通相達候上奥へ可通候惣て猥出

入停止の事

一侍中並女中御門出入の儀都て御裏年寄切手たるへし女中の儀は御裏の御門に

ても切手相改可通候事

右御裏付の面々宜相守候以上

午正月十八日

桂 主 殿印判

毛 宇右衛門印判

覺

一女中出切手は御局印形に御裏年寄預りの御用印肩印を以可勘過候事

一 諸道具出切手

御 取 次

右の面々印形を以可勘過候事

一 御臺所方諸道具

一 對の屋中より差出候諸道具

御 裏 御 道 具 方

右役人の印形を以可勘過候事

一 御作事方諸道具の儀は作事方立肝煎を證據として可通候事

一 侍中何にても自身持せ候諸色の儀は其意趣御門番のもの承之無餘儀於斷は無

切手通可申候事

一 藥道具文箱合羽挑灯傘木履等は不逮切手通可申候事

右の通御裏御門のべり相定候條兼て合印取置せ勘過可被申付候此外一切私の了簡を以或合印書付等取置或於于時の心得を以不通様御門番の者へ入念可被申

付候以上

午正月十八日

桂 主 殿御印形

長井久右衛門殿

廿七日公登城謁見將軍に縞紗五卷世子家重に白銀五枚ヲ献セラル過日婚姻成ヲ謝スルナリ

二月廿三日徒士目付栗屋作右衛門萩ヨリ三見へ歸途山田川ニ於テ溺死セリ特旨ヲ以テ扶持方三人米四石嫡子五衛門ニ下付跡職ヲ命ス

廿六日小川仁右衛門江戸在勤中行跡不良ノ爲メ多大ノ負債ヲ爲シ辨濟ノ途ナキ爲メ扶持方成ノ請願ヲ許シ特例ヲ以テ組戻ヲ命ス諫早七郎右衛門吉就公代ヨリ二十一年勤續本年七十六歳ニ達シ隠居ヲ許スニヨリ銀三十枚下付

廿七日今回成婚ノ慶事アリ赦罪ヲ行ヒ吉原傳右衛門嫡子四郎左衛門父ノ罪ニ坐シ流刑ニ處セシモ歸島ヲ命ス明峯寺向津菴雨寺ハ大寧寺龍峯末寺へ預付中逃亡ヲ覺ラス緩怠ノ科ニヨリ蟄居ヲ命シタルモ之ヲ免ス

三月朔日吉川左京出萩公ノ婚姻ヲ賀スルナリ

十四日ヨリ十六日ニ至ル泰巖公五十年忌大照院ニ於テ法會修セラル三百部讀經十

七日滿散法會囉子式アリ十六日ヨリ十七日ニ至ル江戸青松寺ニ於テ法會修行銀十

五枚米二十俵納付十七日公青松寺ニ參拜二十九日柏谷權六ヲ萩ヨリ高野ニ遣シ代

拜セシム

十九日閔老松平伊豆守息女京極佐渡守へ婚姻ニツキ使ヲシテ屏風一雙干鯛一箱進

セラル

四月四日大坂銅座ノ外銅密賣ヲ禁ス發令左ノ如シ勅定奉
行交付

覺

一近年銅出方不取締長崎廻り銅も少く候付此度銀座爲加役大坂表に銅座申付國々銅山よりの出銅一向に右銅座へ買請候積候間國々山元にて銅出方出精致他賣不致大坂へ相廻し右銅座へ賣渡可申候但銅山間堀等致し銅出方試候類出銅少く候共大坂銅座へ賣渡可申候事

一諸國銅山より出る銅高の内長崎廻り銅並地賣銅共出高に應し割合相定直段の儀は長崎へ相廻り候銅は山元より差出候直段相極置並地賣銅の分は時相場を以銅座と相對いたし賣買可致候尤右銅代は當銀拂の積り候間銅座より直に請取可申事

一山元より銅律出いたし大坂迄相廻し候銅右道筋の間屋又は津々浦々並海上にて銅賣買致間敷候事

一銅大坂へ不相廻山元其外何方にても銅圍置候儀致間敷候事

一國々出銅船積致大坂へ相廻し候節右銅員數書付廻船之ものへ相渡大坂町奉行所へ可差出事

一東國筋より出候銅近年東海廻しにて江戸へ相廻し候由向後東海廻り相止前々の通大坂へ相廻し銅座へ可賣渡事

一其年銅出高凡そ積を以員數書付前年の暮に銅座へ可差出候事

一銅銀しほり吹並銅吹立候儀大坂表銅吹屋共の外諸國山元にて銅銀しほり吹並

銅吹立候儀停止の事

一諸國銅大坂銅座へ一向に買請銅座より諸國へ賣出し候間銅買候者は大坂銅座
又は江戸銀座へ相對を以買請可申候但銅百斤に付口錢銀十匁宛銅座へ引取候事
右の條々國々所々にて急度相守大坂銅座の外には銅賣買一切致間敷候尤銅座よ
りも銅の儀相改候間若外にて賣買いたし候儀於相知は急度可申付者也

午四月

七日當職手元役八木甚兵衛死去

九日預付人有無ニ關シ幕府ヨリ書付交付アリ依テ提出書左ノ如シ

覺

一最上源五郎様御改易の節彼御家來氏家左近助元和八年被成御預國元引越寛永
十五年四月十二日致病死候

但被仰渡候御方並月日等年久敷儀にて留に相見不申候

一松倉長門守様御弟三彌様寛永十五年被成御預國元引越同年江戸被召寄内藤帶

刀様へ御預替被成候付引渡申候

但被仰渡候御方月日等年久敷儀にて留に相見不申候

一島田淡路守様同孫助様寛文十年五月十五日稻葉美濃守様へ家來渡邊小右衛門
と申者被召呼被成御預候段御直被仰渡長門國萩へ引越申候

一淡路守様元祿十年閏二月二十二日於國元御死去被成候

一孫助様寶永六年八月二十日大久保加賀守様へ家來被召呼御用人を以孫助様御
預被成御免候段御書付を以被仰渡早速被成御出府候

一松平越後守殿家來永見大藏延寶七年十月十八日堀田備中守様へ家來の者被召
呼御預被成候段御直々被仰渡國元引越同九年二月江戸被召寄六月二十二日大
藏八丈島へ被差越候に付御船手頭向井將監様へ相渡候

一松平越後守殿家來岡島壹岐延寶八年十二月二十四日土井能登守様へ家來の者
被召呼暫時被成御預候段御直に被仰渡當御地差置同九年六月二十二日三宅島
へ被差越に付て御船手頭小島助左衛門様へ相渡候

右の通御座候此外御預け人無御座候以上

四月

松平大膳大夫内

兼重五郎兵衛

十六日公歸國暇ヲ給フ賜物如例十八日登營拜謝馬ヲ賜フ如例

十八日後房營作竣成ニ因リ矢倉頭人檜崎久右衛門外八人ニ料理ヲ賜フ下付品人名

左ノ如シ

時服一銀子二十枚

時服一銀子十枚

銀子七枚

銀子二枚

銀子五枚

銀子三枚

矢倉頭人

檜崎久右衛門

大檢使

木原小右衛門

檢使遠近通

松浦茂右衛門

御庭見合ニツキ

宮原宗句

無給通事方

福島權右衛門

檢使

倉増平八

宮崎忠兵衛

普請仲取方

坂次郎右衛門

金三百匹

矢倉筆者

下瀬小兵衛

金二百匹

普請方

羽倉久右衛門

銀子三枚

棟梁役

藤井七右衛門

金二百匹

壁方

藤田市右衛門

金二百匹

檢使暫役

坂孫左衛門

銀子五兩

藤井七郎兵衛

同日毛利但馬守廣豐毛利讃岐守匡平ニ歸邑暇ヲ賜フ

十九日公儀人井上半右衛門辭職留任老齡ニ因リ幕府へ乘輿乞願許可アリ

廿日松平下總守嫡子飛驒守死去君夫人ハ孫ノ忌服受ラル萩山口三田尻鳴物停止三

日間

廿一日江戸發駕

廿五日銀子引換ニ關シ發令左ノ如シ
行動定奉
交付奉

當五月朔日より銀引換の儀銀座にても古銀請取文字銀引替候様に申渡候間江戸京大坂銀座へ古銀持參引替可申候且又銀座へ手寄無之者は所々問屋兩替屋へ相頼銀座へ爲指出引替入用銀は百目に付銀一分五厘宛只今迄引替所にて請取來り候を當五月朔日より右引替古銀取集差出候取次の者へ可相渡候間問屋兩替屋共古銀取集銀座へ差出引替候様可致事

右の趣可相觸者也

午四月

同日養子の制發令左ノ如シ大目付同狀

實子無之者奉願養子仕候以後右養子病身に相成御奉公可仕體無之付双方相願實方へ差戻し未年數も經不申内又は養子に遣し度段相願候儀有之間敷事然共差戻し候以後段々快最前の養父も前方は病氣難見届御奉公も可相勤體無之候故差戻し候へ共年月も過病氣快相見御奉公も可相勤様子に候歟猶又醫者杯へも相尋候上今程は氣分快御奉公も可仕體に相見候段實方並最前の養父よりも

頭支配へ可相届候其上にては實方より右のもの相續等相願候儀又は他へ養子に遣候共年數十年以上にも及相願候は、其節の様子次第願の通可被仰付候事右の趣頭支配の面々へ可被達候並其外の面々へも寄々可被達置候

四月

五月五日公歸國途次京都ニ抵リ一泊養心夫人ニ面謁所司代土岐丹後守及町奉行所へ留守居平川長左衛門ヲシテ報告セシム公一條鷹司有隣軒邸ヲ訪ヘル六日京都ヲ發ス

十八日朝鮮人參發賣ノ令アリ鎌川實紀

廿三日公歸城禮使山田五左衛門ヲ出府セシム

廿四日公歳二十四心涼院毛利主水正室二十四厄入ニツキ滿願寺宮崎社ニ於テ祈禱修セラル

六月朔日洪水相府年表

六日當役桂主殿辭職ヲ許シ堅田安房ニ後任ヲ命ヌ

十一日當職毛利大藏辭職ヲ許シ山内縫殿ニ後任ヲ命ス

十四日長沼九郎兵衛當職手元役ヲ免シ後任ヲ當役手元役山縣市左衛門ニ命ス山代
代官坂九郎左衛門ニ當役手元役ヲ命ス

十五日毛利大藏ニ料理ヲ賜フ刀一腰代金三枚紗綾三卷乾鯛一箱下付公在府中多端ノ
費途ヲ處辨スルノ勞ヲ慰スル也

廿一日山内新右衛門裏判役ヲ免シ粟屋勘兵衛ニ後任ヲ命ス中村孫右衛門藏元兩人
役ヲ免シ京都留守居ヲ命ス遠近方山縣藤助ニ藏元兩人役ヲ命ス寶藏武具方和智九
郎左衛門ニ遠近方ヲ命ス熊野右中ニ寶藏武具方ヲ命ス作事方周田八郎右衛門ニ山
代代官ヲ命ス吉田代官生田猪右衛門ニ作事方ヲ命ス

廿三日加判役毛利宇右衛門辭職留任代金七枚五兩ノ脇差下付

廿五日山内新右衛門ニ寺社奉行ヲ命ス

廿九日五月八日ヨリ六月朔日ニ至ル國內風雨數度田畑損害高七萬五千八百二十石
餘家屋流覆千七百六十四戸橋流失八十四死人十五死馬五頭ヲ幕府ニ上陳セラル此

外長府徳山領被害報告アリ略ス

七月四日大組物頭島尾五郎右衛門ニ桂五郎左衛門替町奉行ヲ中川與右衛門ニ飯田
與一右衛門替三田尻頭人ヲ清水勘右衛門ニ河瀬五郎右衛門替當島代官ヲ志賀平馬
ニ生田猪右衛門代吉田代官ヲ命ス

十二日加判役毛利筑後辭職留任老臣無人ニ依テナリ

日不詳醫師竹田安定家計困難扶持方成中ト雖モ祖先傳來ノ醫術嫡子定詮へ見學ノ
必要アリ父子晝夜外勤ノ病用請願ヲ許可セラル事由左ノ如シ

竹田の家先祖渡唐傳來の醫術にて御醫師の内類格無之様に相見候へは家傳療
治秘傳等においては他家の醫師衆へ傳授を請候様に難相成可有之と相見候其
外にては半井の家廣有之家柄に御座候へ共竹田同様に渡唐傳來の家共違ひ候
へは若は向後半井御扶持方成候内かやうの願可申出哉先此兩家と相見候此外
は大概道三流の由候

一定安嫡子儀は晝の内他家醫業爲稽古外の療治可被差免哉御扶持方成の平士嫡

子裕古の願有之候へは晝の内他出被差免候條御扶持方成の仕法に差支申間敷と相見候

一定安儀晝夜平人の通嫡子療治爲相談見合被差免候ては御扶持方成仕法不相成儀候故晚付八時前後より悴療治の病用爲相談見合候儀被對家柄各別の御了簡を以可被差免哉

一悴療治の病人大切に相成候は、朝晝の内にも定安見合相頼度由無據譯病家より願有之候は、其時に僉議の上日切を以可被差免哉

右の通達御聞候處に伺候通可被仰付との御事に付及其沙汰候事

十一日令大目付同狀

屋敷場所願是迄は年貢地をも相願候得共向後は年貢地相願候事無用候此段通し可被置候

午七月

十二日益田源兵衛ニ城代ヲ命ヌ井原大學後任ナリ

廿四日鍵鎚横地七郎兵衛ニ銀二枚下付多數ノ弟子指南明倫館皆勤ニ因テナリ

廿八日煙火禁止ノ令アリ大目付同狀

同日井原大學城代役免職ニツキ紋付羽二重センシ羽織一下付諫早七郎右衛門馬場先夫人衰老其他ノ職務勤務ニ因リ召下帷子一下付飯尾九右衛門表番頭手回物頭肥録役ヨリ養心夫人邸數年勤務ノ勞アリ召下帷子一銀十枚下付書院役來原三郎左衛門免職ニツキ銀十枚下付室田吉左衛門ニ金三百匹増山六左衛門大塚勘右衛門幸坂十兵衛弘與右衛門ニ金二百匹下付供徒士水練上覽ノトキ成績良好ナルヲ以テナリ八月四日諸臣俸祿高百石ニ八石懸ヲ以給與セラルヘシトノ發令アリ黒印令條及老臣添書左ノ如シ

數年不勝手の上重き臨時の入用打續家來中年々出米申付至極令困窮の段連々聞届年來儉約を以出米差免し度種々吟味申付といへとも先御代類焼以來別て莫太の借銀に付年々馳走米の餘計を以納入も相成所今以過半其償金不足其上去今年江戸表過分の造作入有之且當年水損等の費彼是差湊氣毒の至候然共家中も當分

の續乏き趣につき萬事を聞救の沙汰申付といへとも悉差返候様難成漸當年計出
米令減少猶來暮も馳走を請の外これなく家來中も取續難成時節候へとも愈以面
々令吟味奉公の覺悟あるへし委細年寄共より申聞すへき者也

元文三年八月四日 御黒印

覺

一年來御所帶御逼迫の上段々重き臨時の御入用打續御家來中年々の出米被仰付
困窮及至極候段連々被聞召上別て御苦勞に被思召何とぞ御仕組被仰付重き御
儉約の筋を以旅役出米の外御馳走米被差免度との御思召付て各申談種々遂吟
味候處去る亥の年江戸御屋敷御類燒御作事御代替虫枯の大變に付夥敷御借銀
其以後御仕組被仰付且御火災の節は下よりも御馳走御願申出年々出米の餘計
り以元利御納入も相成尤文銀通用に相成候ては御借銀御繰卷も成罷罷成候へ
共大段の儀候故今以餘分の御納殘御上納金等も于今相滯其上去御番手の儀も
段々重き御造作入兼て御引當の外過分の御増送先項申來且又米紙共文銀通用

に相成候ても下直に相當り當年洪水に付田畠損亡御所務如形令減少其外所々
破損所修補の御造作入莫太の儀彼是に付悉御馳走米被差返候様に難被爲成氣
毒千萬の儀に候然共近年重き出米打續御家來中當分の取渡も難成趣に相聞候
に付至極御儉約の儀は不逮申萬事を被聞候て當年計にても御救の吟味被仰付
度との御事に候處に年來御儉約を被盡候得共格別御餘計にも不相成候故猶又
大坂表御借銀御繰卷の吟味被仰付漸御馳走米の員數被減高百石に付米八石宛
別紙の通被召上來暮の儀は十二石宛の御馳走米被仰付候御家來中の儀も大小
身共に米穀下直旁取渡難成時節柄の儀其上年來及困窮たる儀候間近年の御馳
走米に對し當年少々御宥免有之候とても強て潤にも難成可有之候へ共別段可
被成やうも無之儀候間能々致勘辨多少によらす上の御心入被相考乍此上面々
儉約の上にも猶又遂吟味何とぞ取續御奉公の志肝要の儀候事
一御馳走米悉被差返兼て被定置候旅役出米且又先年の趣も有之儀候間借銀爲納
方引米等被仰付候筋も可有之候へ共其通にては還て手取石の内餘分減少可仕

儀に付地他國御遣用其外省略減少等の吟味被仰付當年の儀は右の通御馳走被
召上候事

一大坂御運送米近年被差登候石辻餘分減少相成候ては彼地の繰巻難相調候付當
暮御戻石不殘御米を以一同に被渡遣候様には難相成候間大坂へ登せ米被仰付
御賣拂其外御取下銀取合銀子を以渡方可被仰付候尤銀子の儀は大坂よりの仕
送暮詰春へ越候儀も可有之候間一同の御渡方不相成事も可有之候然とも其通
にては下の差間にも可能成候間其内少々の儀は御繰巻相成次第御振替の御吟
味を以霜月頃より渡方被仰付候様にも可有之候勿論右の通聊御餘計無之御所
帯に候へは此上到暮自然歎の筋有之候ても米銀共御手當少も無之候事
一病者幼少出米の儀は倍役の御法も有之事に付五米増にては難被差置儀に候へ
共下にも至極困窮の時節付而此度は先流例の通被召上御扶持方成の儀をも近
年の通被仰付候向後御仕組有之時分は只今迄の仕法被相改何分共可被途御沙
汰候且又諸借銀納方仕法の儀は別紙の通被仰付候事

右御家來中能々被存此趣大小身ともに可有其心得候以上

午八月

堅 安 房
山 縫 殿
毛 宇右衛門
毛 筑 後

古來の御斷堅被停止の旨並引例の濫訴被相禁の段萬治御制法嚴然に候處に毎々
愁訴不得已間々混雜の儀も有之候へ共此度御吟味の上彌古法の趣を以自今全不
被聞召上の旨被仰出候間向後右體の書付の儀は於支配所一向取次有之間敷候若
先達て差出置候分は追て被差返候て可有之候且惣て愁訴の儀是又今來年も御仕
組の中故被差止候尤御心入を以依品上より被仰候儀は愁訴の筋に不可混候段可
爲勿論候事

御馳走米段分覺

一高百石以上

但高百石に付現米八石掛

一高七十石以上

但高百石に付現米七石一斗掛

一高五十石以上

但高百石に付現米五石五斗掛

一高四十石以上

但高百石に付現米四石二斗掛

一高三十九石九斗九升以下

但高百石に付現米三石一斗掛

一足輕以下

但現米十石に付一斗八升掛

一病者幼少の儀は此度の御馳走惣の當り五米増被仰付候事

一御扶持方成の儀は御了簡を以此度の御馳走惣の當り二米米増被仰付候事

一寺社家御馳走の儀惣の當りの内三步二被召上殘三步一被差除候事

一御切錢持合の分は如古法五石和市にして被召上候事

附り永々銀持合候分は下の勝手次第米銀の間を以可被召上候銀子を以差上

候時は二石和市にして被召上候事

一被石へは御馳走米被差免候事

一二人扶持計のものは御馳走被差免候然共一人扶持にても切方持合二人扶持よ

り上に相候へは御馳走被召上候事

一御雇衆隠居料女中の恩扶持一步引にして被遣候事

一旅役銀の儀御馳走出米就被仰付公銀を以勘渡被仰付候事

右午年御家來中より御馳走米高百石に付現米八石掛前書の段分を以被召上候來

末の年高百石に付現米十二石掛御馳走出米被仰付候段分の儀は右の割方を以到

來秋可被差出候以上

午八月四日

地下より御馳走米左の如し

年來御所帶御逼迫の上近年重き臨時の御入用段々有之打續御家來中出米被仰付
 地方よりも引續出米就被仰付候當年の儀は御家來出米地方出米の儀も被差除度
 との御事にて御所帶御仕組段々吟味被仰付候處近年臨時の御入用相重り差當り
 去年以來於江戸廉有御物入多く其上米穀下直にて御積りの外令相違御所帶御繰
 卷難被爲成御家來中出米の儀も少々御宥更有之候へ共不殘被差返候様にも難被
 爲成候依之地方出米近年の趣も有之候へ共色々御吟味を以少々被減無據當年の
 儀も石に付二升宛の御馳走被召上來年は出米被差免候儀條右の趣を以て御藏
 入給領共可被申渡候尤於御代官も隨分致吟味諸掛等令減少御百姓取續當年右の
 辻遂御馳走候様可有沙汰候事

同日江川平八筒井源三郎數年近侍勤仕ニヨリ銀五枚下付

九日玉川上水組合赤坂柳堤戸樋筋其他戸樋樹伏替ニツキ吾藩出銀左ノ如シ高百石付銀石

四忽三分三厘九毛六絲
四忽三微宛出銀割合

高三十六石九千四百一十一石

出銀十六貫三十一匁一分一厘九毛

十四日龜井豐前守入部ヲ祝シ津和野へ使者ヲ遣シ太刀金馬代晒布三十匹箱着二種
樽代千匹遣ラル

十五日目付役小笠原仁左衛門ニ公儀人ヲ物頭役赤木藤右衛門栗屋五郎兵衛ニ目付
役ヲ命ス

十七日三谷三九郎病アリ末期ニハ嫡子萬太郎へ用達及扶持方米繼續下付ノ請願許
可ス三九郎病死ニヨリ香銀五枚下付萬太郎三九郎ト改名家督ノ祝品ヲ献ス故三九
郎遺物トシテ三幅對探齋鶴達摩猿ノ軸物ヲ呈ス

十日滿願寺ニ召下白無垢下付自費ヲ以上京五智山蓮花寺ニ於テ地藏院流ノ奥儀
宗極不殘附法ヲ授受聖教數百卷並灌頂秘密ノ諸道具調製永久ノ什寶ニ供スルニ由
リテ也

同日心涼院裏老内藤新右衛門免職ニヨリ召下帷子銀五枚下付檜崎太郎兵衛ニ市川孫右衛門替大組鐵砲頭ヲ命ス高四郎左衛門忍籠奉行ヲ免ス西御殿以來十二年勤績ニヨリ金十兩下付

廿二日氏家與三右衛門ニ記録所役ヲ添肩衣役香川二郎右衛門ニ奥番頭役ヲ命ス同日岩國家臣犯罪處爵ノ事吉川家ヨリ申告アリ吉川外記當職中ノ罪科ナルヲ以テ家祿沒收嫡子相之進ニ更ニ俸祿給與其他切腹五人斬首六人放逐二人也原因ハ往古ノ古金二萬兩準備古銀二千貫目平素支出嚴禁タルヲ倉庫ニ於テ紛失セシト云フニアリ此事項ニ關シ詳細ノ記乗アルモ長文ニ涉ルヲ以テ略ス元文三年四月ヨリ四年二月迄諸事小々控廿七日扶持方成ノ輩ニ對シ遠近方ヨリ伺書左ノ如シ

覺

御扶持方成近年は御仕法の通諸借返済相成候ても一ケ年は休被仰付休年手取石の餘計を以御役目道具等修履仕大概は組戻被仰付儀御座候此段致僉義候處近年纒宛追々御馳走も被差戻手取石も銘々相増候得は且々繰卷相成者も可致出來儀

御座候御扶持方成近年相増到只今候ては餘ほと二百人及有之御番相勤候者も致減少候殊更馬持通以上の儀は元御人數寡御座候處に右の通餘分御扶持方に相成御役同所勤の人數致減少御差問可相成且は御役目惣の被カクに相成及迷惑候譯も可有之候御扶持方成の内にて當分の差問に付御斷申出候者も有之儀に御座候間借銀返済半途にても繰卷の方便出來仕分限相應の御役何時も可仕由にて組戻の御銀申出候者をは順次第組戻り可被仰付哉

廿九日十月廿九日ヨリ十一月中禁裏ニ於テ大嘗會行ハルニヨリ京都市鳴物停止ノ發令アリ

九月十二日日本年二月廿六日七年ノ制限ニヨリ諸國戶口調査ノ幕令アリ是日人員調査幕府ニ上陳左ノ如シ

周防長門人員合四十七萬五千八百四十五人内男二十五萬五千六百九十三人女二十二萬百五十二人本年三月改也

十五日粕谷權六ニ日下窪夫人心涼院裏老命セラレ回神舍人ト交代セシム

廿三日大組柿並與三右衛門ヲ手回組ニ加ヘ右筆役ヲ命ス

廿六日山縣彌八山田九郎太嫡子履ニテ右筆役ヲ命シ米三十俵宛下付手回組ニ加フ
晦日渡邊半左衛門病死跡職持掛扶持方五人米四石嫡孫長槌ヘ給與ナルヘキモ半左
衛門江戸六番手三十五年勤務嫡子四郎右衛門右筆役數年勤仕セシニ去年死去セリ
父子ノ勤功ニ對シ半左衛門持掛給米沒取四郎右衛門ヘ下付扶持方五人銀二百五十
目嫡孫長槌ヘ下付家續ヲ命ス

十月三日膳夫富永平右衛門江戸ニ於テ逃亡ニツキ扶持方五人米四石五斗沒收

九日石川源八大砲上覽ノトキ技術熟達ニヨリ銀三枚下付

十日加判毛利宇右衛門病アリ辭任ヲ乞フモ認可セラレズ然ルニ累年勤績家資窮乏
ノ爲メ多額ノ負債アリ到底職務ヲ免セサレハ家計維持ノ途ナシ儉政中公借ヲ許サ
レサレハ非役ノ輩引田成ノ成法モアリ因テ在役ト雖モ引田成ヲ出願セハ許容ナル
ヘキトノコトニテ左ノ方法ヲ以テ引田成ニテ勤務請願允可セラル引田成中間箇條
ニ對シ別紙指令アリ長文ヲ以テ畧元文三年四月ヨリ同四年二月迄諸事小々控

高六千石ノ分

一米二千四百石

四ツ物成之分

内

四百八十石

但高百石ニ付米八石掛リ御馳走

千三百二十石

但諸借納入ニ相成分

六百石

但知行物成四ヶ一ノ當リヲ以堪忍石ノ分

以上

二千四百石

外ニ

文銀十五貫目

但引田にて當役所勤被仰付候時御役付て造作入に被爲對其年々の御沙汰を以借用被仰付にて可有御座候事

十六日毛利讃岐守年來財計困難ノ處目今後房營繕且婚姻ノ爲メ多額ノ費用ヲ要シ百貫目合力ノ請願アリ儉政中合力ノ乞願ハ總テ拒絕セララル、モ讃岐守ハ別テ微力今回ノ如キハ事情止ヲ得サルモノニツキ文銀五十貫進セララル

十一月朔日大多和惣兵衛ニ目附役ヲ南方九左衛門ニ手回物頭ヲ表番頭信常太郎兵衛ニ手回物頭ヲ福間舍人ニ表番頭ヲ命ス田坂喜兵衛書院小性ヲ免シ銀十枚下付膳夫臼杵平左衛門數十年勤務本年八十三歳隱居許可ニ依リ銀十枚下付

八日檜崎小源次飯尾庄九郎嫡子雇ニテ小性役勤務ニヨリ扶持方五人分宛切錢二百五十目宛下付手回組ニ加フ

十五日手回頭兒玉五左衛門前後數年勤勞ニ因リ免職老中ニ任ス組頭役熊谷帶刀ニ手回頭ヲ命シ乘輿ヲ許ス井原彦右衛門ニ大組頭ヲ命ス

十八日小川玄孝乞願アリ合力米三十人扶持嫡子玄達一代給與ヲ許サル

十九日京ニテ大嘗會再興アリコハ貞享四年ニ一タヒ行ハレシモ其後又五十一年中絶セシヲ關東ヨリ言上再興アリシ也因テ經費ヲ上ル徳川十五代史

廿八日出火ニ關シ伺定左ノ如シ

一出火有之節火本の儀は御究の役人罷出候程の儀候へはたとへ本宅の内少燃上り又は長屋端燒失仕候ても遠慮の儀申出當役中承届三日にて被差免來候右遠慮申出候段只今迄時々遠御聞たる儀も有之不單御聞儀も有之様相見候出火有之何某火本と申儀は其時々御注進の上遠御聞儀に御座候に付遠慮一通の儀は御大法の儀候條不及御聞當役中承届三日の遠慮はて被差免候様に可被仰付哉且又寄組以上並御側相勤候面々の内火本にて候か又は其外にても類燒なとも有之御究の上相替趣も御座候は、遠慮申出候段早速及御聞候様可仰付哉

十二月二日文字金銀引替ニ關シ發令左ノ如シ大目付回狀

文字金銀段々引替相濟候付向後引替所相止來未正月より金は江戸京金座にて直に引替銀は江戸京大坂銀座にて直に引替候筈候間勝手次第引替候様可致候只今

迄引替所にて引替候入用として金一兩に付銀一分銀百目に付金一分五厘つゝ、請取候へ共自今は右入用不請取管候間金銀座へ持參候は、右入用差出候に不及候尤國々にて引替致世話候ものは引替人へ相對いたし右入用取の古金銀取次金銀座へ差出候様に可致候

一先達て相觸候通り當四月晦日迄引替所へ案内申込置候分は向後共に金は六割半銀は五割の増歩を以金銀座にて引替候筈に候且又右案内申込置候金銀高の内先達て金銀不在合段斷申聞帳面除き候分も此以後金銀持參候は、四月晦日迄申込帳面に記置候員數程は金は六割半銀は五割の積り増歩相渡金銀座にて引替候様に申渡候間其旨可相心得候右の通可被相觸候

午十一月

八日老臣訓示二通發布アリ左ノ如シ

江戸御留守に被差置候大番衆其外支配中へ御制法諷知の事近年御沙汰懸にて候處古來の流例不愷成候付て當番の面々も一同に承候様此度御沙汰の上御殿於大

番所讀知相成候やうに被仰付候尤其節は御目付衆とも可被差出候事

一於御國中御家來中小兒前髪を執候事を元服と申ならはし候事小兒大人の境を分ち前髪を取候へは大人の形ちに罷成候故候事と相聞候然處近年の風俗にて十歳内外の年並にても袖を留前髪を取候様相見候定て儉約の時節其外勝手の爲にても可有之候へ共其身の行跡禮法に付小兒は小兒にて相立大人は大人の作法にて無之候へは難相立候故十四歳迄を小兒とし十五歳以上を大人と定め候事凡の通禮にて候處小兒を以て大人の形ちとなし候事其形見苦敷且禮儀に背たる事と相見候間自今十五歳未滿の小兒前髪を執候事可爲無用候且又袖留候儀も十歳未滿の小兒可爲無用候尤十五歳未滿にても勝れて其形ちふとく前髪不相應に相見候は、支配方を以遠近方申出可被任許容事

一髪置以前の小兒頭上に少髪を立廻りを刺髪にいたし候事是又古來無之異形に相見候付自今可爲無用候以上

元文三十二月

同日裳掛道悦嫡子山田久之允ハ山田又左衛門育ニテ由緒アル浪人ニツキ諸士間へ養子縁職ノコト又左衛門ノ乞願許可アリ

裳掛道悦祖先裳掛河内守ハ小早川家普代ノ家老ニテ詳細なる由緒書アリ元文三年二月

ヨリ四年二月迄諸事小々控

廿一日上水營繕割合金及入札等ニ關シ道奉行小倉孫太郎交付書付左ノ如シ

一組相中へ割合成候程の金高上水普請有之自今普請中銘々共度々可致見分候其

上出銀帳面相改與書可相調之候間其張面を以出銀取立可被致候諸事猶以被入

念候様に存候

一小分の修覆有之節仕置普請成候事は前々の通可被相心得候

右の趣組合中武家方並町方へも通達可有之候以上

午十二月

道奉行

廿三日諸大名賜暇ノ輩滯府ニ關シ大島織部吾藩依頼先手裏ヨリ公儀人へ交付ノ書付左ノ

如シ

近來は被下御暇候面々病氣の由にて滯府の輩多き様に候病氣も無據事に候へ共在所へ被相越も御奉公の事に候得は旅行相成候程の事に候は、可被相越儀に候滯府被相願參勤の比には快氣の由にて出勤候輩も有之候へ共不都合成様に御沙汰も候は、如何に存候間急度申達品には無之候へ共此段噂申候段寄々手寄の衆へは可被咄置候

廿八日大頭粟屋帶刀へ萬治三年子九月十四日御黒印ノ寫ヲ添老臣訓令發布アリ

萬治三子九月十四日益田孫左衛門ニ當ル御黒印略

右の御黒印御書付御正書大頭所に無之由につき僉議申付の處先年益田孫左衛門宅火災の節令燒失由に候依之右の趣達御聞寫申付差出置候以上

元文三年十二月

堅安房

山縫殿

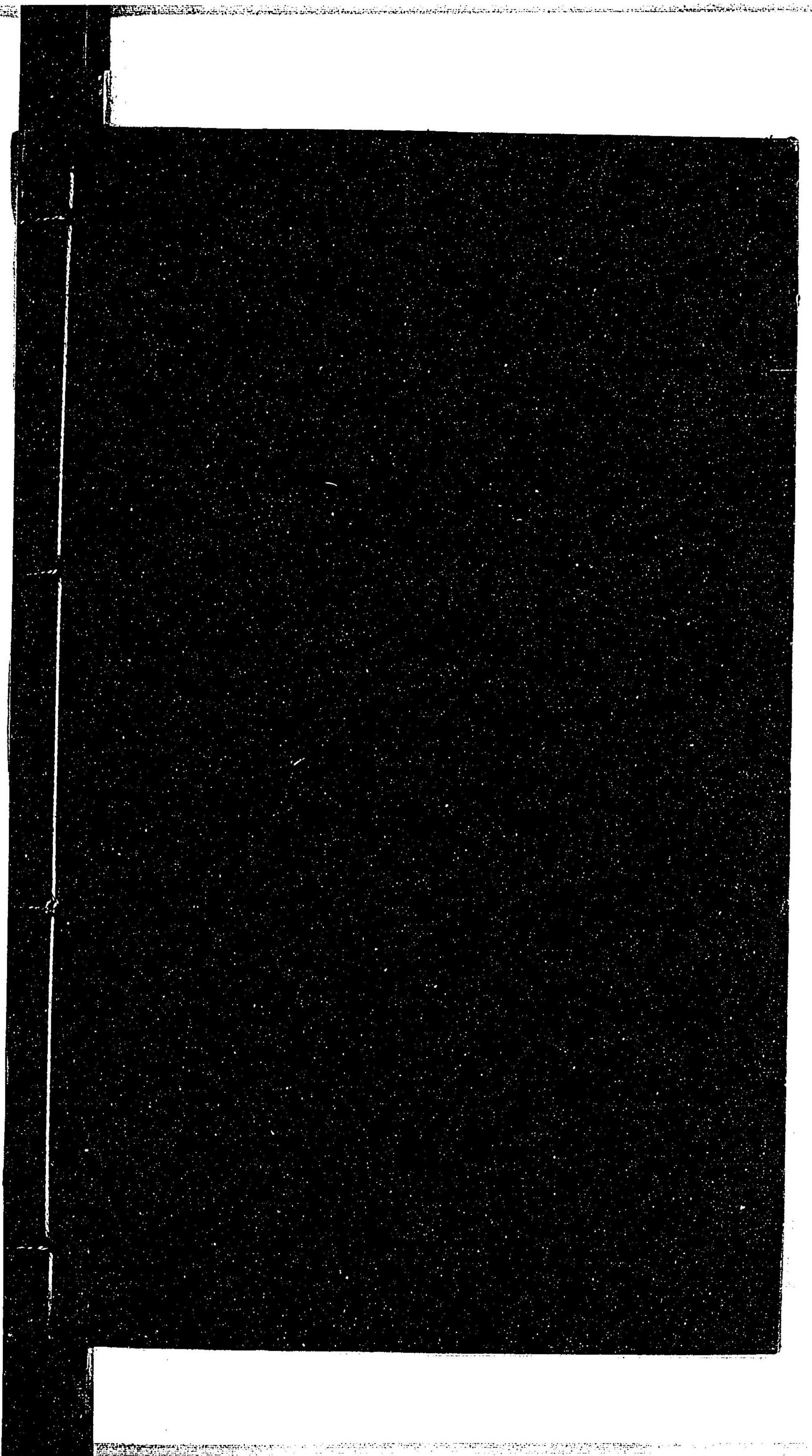
毛宇右衛門

毛大藏

246
42
237

海
和
一
个
物
也

毛
筑
後



246
42
23

毛利十代史

第二十四册